

リンドウ実証栽培(1年目)

<研究目的>

- ・除染後農地におけるリンドウ栽培の実証
- ・川内村に適應する品種の検討

<実施場所>

川内村(下川内)

福島県農業総合センター生産環境部福島市駐在

Fukushima Agricultural Technology Centre
福島県農業総合センター

現地に導入した実証技術

- ① 土壌診断
- ② ジベレリン処理によるリンドウの株養成技術 (H20県成果)
 - ・定植30日後にジベレリン処理を行い、生育を確保。
 - ・定植年の切り花可否を判断。
- ③ 県オリジナルリンドウ品種主体の連続出荷技術 (H20県成果)
 - ・14品種を供試し、需要期出荷が可能となる品種の検討。
 - (・小トンネル栽培を行い、同一品種の開花期を前進。開花期の拡大)
- ④ 無積雪地帯におけるリンドウ株の越冬技術 (H23県成果)
 - (・稲わら等による越冬技術の実証)

Fukushima Agricultural Technology Centre
福島県農業総合センター

土壌の状況(化学性、放射性セシウム)

実施場所	地目	除染方法
川内村(下川内)	水田	反転耕

・栽培前には、土壌分析が必須です

作付け前の土壌分析値

pH (H ₂ O)	EC (mS/cm)	CEC (meq/100g)	P ₂ O ₅ (mg/100g)	K ₂ O (mg/100g)	CaO (mg/100g)	MgO (mg/100g)
5.8	0.03	13.7	41.5	32.9	90.9	22.8

除染後の作土15cmの放射性セシウム濃度(Bq/kg・乾土)

¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹³⁴ Cs + ¹³⁷ Cs 合計
270	660	930

※採土日の平成26年4月8日に減衰補正した値



5月31日 初めての畦立作業



6月4日 定植



7月25日



10月2日



リンドウの生育

定植30日後にジベレリン処理を実施 (県成果の実証)

→ 除染後農地でも旺盛な生育を示した。



処理なし

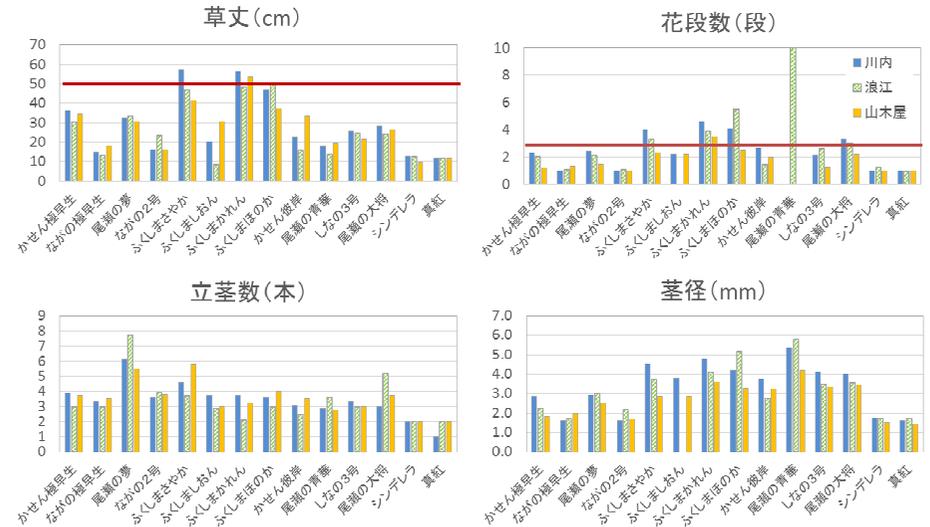
処理あり

ジベレリン処理の有無と抽苔率

品種名	抽苔率 (%)	
	処理あり	処理なし
ふくしまさやか	100	0
ふくしましおん	64	0
ふくしまかれん	100	0
ふくしまほのか	89	0
かせん彼岸	90	0
尾瀬の大将	97	0
尾瀬の青華	35	0

リンドウの生育

定植年の生育良好。旺盛な生育。



リンドウの生育

定植30日後のジベレリン処理を実施

→ 一部の品種では定植年に切り花ができた。



ふくしまさやか (10月2日)

品種名	出荷見込本数 (本/a)	うち秀品率 (%)
尾瀬の夢	38	60
ふくしまさやか	102	27
ふくしましおん	0	0
ふくしまかれん	198	18
ふくしまほのか	200	65
かせん彼岸	12	67

※定植株数はa当たり600株

早期のフラワーネット設置と適切なネット管理が必要

野生鳥獣の状況

定点カメラによる調査(回)

	イノシシ	タヌキ	キツネ
日中	-	-	-
夜間	15	19	1

→ 電気牧柵等による対策が必要

※188日間調査。日中6:00~17:00、夜間17:00~翌6:00



リンドウ近接ほ場の地面を掘るイノシシ



イノシシが掘り起こした近接ほ場の様子

導入した実証技術の評価(まとめ)

① 土壌診断

・除染後のほ場においても、リンドウ定植年の生育は良好

② ジベレリン処理によるリンドウの株養成技術

・定植30日後ジベレリン処理で、生育確保。

・一部品種では、定植年に切り花収穫が可能。

③ 県オリジナルリンドウ品種主体の連続出荷技術

・供試14品種の生育は良好。

次年度の計画

・切り花調査(開花期、品質)

・市場PR、求評

(実証区外の市場出荷)

(面積を拡大。新規栽培希望者あり)

